

# 「近代化」とは何か

辻村 明

東京大学文学部教授  
本学会理事

What is “Modernization”?

Akira TSUJIMURA

Professor, University of Tokyo  
Director, IATSS

IATSS フォーラムの発足により、国際交通安全学会のメンバーも、いやでも発展途上国の「近代化とは何か」を問われることになるであろう。そこで参考までに、拙見を御披露することにした。

中近東の6カ国をとりあげ、発展途上国の近代化研究の走りとなった D. Lerner, *The Passing of Traditional Society*, 1958のなかで、著者は用語の変遷を面白く指摘している。現在、「近代化」(Modernization)といわれていることが、第一次世界大戦以前には「ヨーロッパ化」(Europeanization)といわれていたという。そして第一次世界大戦において、アメリカが大きな勢力として抬頭してくるにつれて、ヨーロッパとアメリカとに共通したものを指示するのに、「ヨーロッパ化」では不十分となり、代って「西洋化」(Westernization)といわれるようになった。ところが第二次世界大戦で、ソ連が大きな勢力として抬頭してくるにつれて、ヨーロッパとアメリカとソ連とに共通したあるものを指示するのに、「西洋化」では不十分となり、代って「近代化」(Modernization)といわれるようになったというのである。

これは言葉の変遷を、政治情勢との関連から説明していて、非常に面白いが、しかしここでは「近代化」の定義は何もおこなわれていないのである。その他、アメリカの社会学者や政治学者は、「近代化」をあらゆる指標として、「都市化の進展」「1人当り国民所得の向上」「マス・メディアの普及」「文盲率の低下」「地理的移動の拡大」「大衆参加の浸透」「官僚制機構の発達」など、実にさまざまなものをあげるが、結局は指標の羅列だけに終り、明確な定義には達していない。

それに対して、日本やドイツの社会学者は、一面的ではあるが、中世的封建制からの人間の解放といった面を強調する。M. ウェーバーは「呪術からの解放」(Entzauberung)を「近代化」の中心に据えたし、川島武宣氏は「封建的桎梏からの解放」を重視した。

こうした内外の諸説を検討した結果、私は「近代化」とは、「機械化」と「民主化」とが進行していく過程だという結論に達した。「機械化」というのは、機械技術が発達し、その成果(産物)が日常生活に普及していく過程である。また「民主化」というのは、民主的な政治制度が確立するだけでなく、ひとびとの思考様式や生活態度も民主化することを意味する。そして「機械化」は18世紀末の産業革命に端を発し、「民主化」は同じく18世紀末のフランス革命(市民革命)に端を発している。

しかし「機械化」と「民主化」とは進展のテンポを異にする。「機械化」の進展は自然科学を土台としているので、後戻りをするのではなく、前進あるのみである。ところが「民主化」の進展は、ひとびとの意識の変革を媒介とするので、遅々として進まないことが多い。

だから「機械化」と「民主化」とはズレるのが普通であるが、「機械化」が進めば、「民主化」も早晚進んでいくものなのか、あるいは「機械化」と「民主化」とは原理的に全く無関係のもので、いくら「機械化」が進んでも、「民主化」は進むとは限らないというものなのか、諸説の間で意見がわかれている。私の意見は、両者の間にはやはり因果関係があるのではないかということである。

原稿受理 昭和61年1月10日